

減収・品質の劣化にもつながります

きゅうり

うどんこ病の

防除を心がけましょう。



写真提供：愛知県農業総合試験場

病気が広がると防除しにくくなります。
 予防散布を心がけ、病気が広がりがけた場合は
 予防効果と治療効果を兼ね備えた剤で防除しましょう。

ノズルの散布角度も防除のポイントです

【参考事例】

	うどんこ病 菌そう発生葉面積
真上	2.4%
斜め45度	0.7%
真横	0.5%

※散布水量200Lのデータです。

薬液は
まんべんなく散布しましょう。

きゅうりうどんこ病防除剤

平成22年12月22日現在

薬剤名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	使用回数	予防	治療	浸透性	系統
ダコニール1000	1000倍	前日まで	8回以内	○	×	×	有機塩素
ポリオキシシAL水和剤	1000倍	前日まで	3回以内	○	○	○	抗生物質
フルピカフロアブル	2000~3000倍	前日まで	4回以内	○	×~△	△	アニリピリミジン
アミスター20フロアブル	1500~2000倍	前日まで	4回以内	○	○	○	ストロビルリン
トリフミン水和剤	3000~5000倍	前日まで	5回以内	○	○	○	EBI
モレスタン水和剤	2000~4000倍	前日まで	3回以内	○	○	×	その他

農薬の使用にあたってはラベルの表示事項を守りましょう。